かけはし

会報 80 号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:東條 裕志
事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 バロール代々木 415
TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/

特定非営利活動法人 JPALD 全国LD親の会

サポートツール全国キャラバン 2014 教材教具研修会「発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の具体的方法」

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

子どもが自分に合ったサポートツールを使用していくことは、子ども自身が自分のことを知り、自分に合った学習方法を手に入れて、自ら学んでいく力をつけていくことになり、本人が自己理解を進めていく道筋につながっていきます。今年度も、発達障害のある子ども達の生活・人生をいきいきとしたものにしていくために、「サポートツール」についての活動を進めています。

1、サポートツール全国キャラバン 2014 in 富山

＊日時: 2014 年 9 月 28 日(日)10:00～16:30(受付 9:40)
＊会場:富山市障害者福祉プラザ 多目的ホール
＊参加者:87 名
（一般参加者 55 名 正会員 31 名 賛助会員 1 名）
内訳:保護者 39・教員 12・作業療法士 15・その他 21
＊共催:富山県 LD 等発達障害及び周辺児者親の会「ゆうの会」
講演 1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方で変わる教材の有効性～
講師:山田充氏
（特別支援教育士スーパーバイザー）
講演 2「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」
講師:嶋谷和之氏
（日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター）
ワークショップ:
事例となる対象児の食事の様子や宿題に取り組む様子、

折り紙、縄跳びの様子などのビデオを見た後、グループ毎に子どもの特徴、抱えている問題点、支援方法を討議しました。

2、サポートツール全国キャラバン 2014 in 高知

＊日時: 2015 年 1 月 11 日(日)10:00～16:30
＊会場:高知市文化プラザかるぽーと 大講義室
＊共催:高知 LD 親の会sky
＊後援:高知県、高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知県市町村教育委員会連合会、一般社団法人日本LD学会、一般社団法人日本作業療法士協会、一般社団法人高知県作業療法士会、日本感覚統合学会、高知さんさんテレビ株式会社、高知新聞社
講演 1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方で変わる教材の有効性～
講師:山田充氏
（特別支援教育士スーパーバイザー）
講演 2「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」
講師:嶋谷和之氏
（日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター）
ワークショップ

3、サポートツール全国キャラバン 2014 in 大分

＊日時: 2015 年 2 月 22 日(日)10:00～16:30
＊会場:大分県立芸術文化短期大学人文棟 205 教室
＊参加費:一般 1,000 円 会員 500 円
＊定員:80 名
＊共催:大分県発達支援親の会「じゃんぷ」
＊後援:大分県教育委員会、大分市教育委員会、社会福祉法人大分県社会福祉協議会、大分合同新聞社、一般社団法人日本LD学会、一般社団法人日本作業療法士協会、公益社団法人大分県作業療法協会、日本感覚統合学会
講演 1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方で変わる教材の有効性～
講師:山田充氏
（特別支援教育士スーパーバイザー）
講演 2「作業の工夫で子どもたちを元気に！」～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～
講師:丹葉寛之氏
（藍野大学医療保健学部作業療法学科講師）
ワークショップ
参加申込方法については、全国 LD 親の会 HP をご覧ください。 （井上）

特別支援教育支援員養成事業

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

全国LD親の会では平成21年度から特別支援教育支援員の養成に関する研究に取り組んできました。特別支援教育支援員の養成のあるべき姿を示し、特別支援教育支援員の資質の向上を図り、発達障害などのある子ども達への支援の充実に資することを目指しています。

今年度からは、各地の親の会が主体となって全国のどの市町村においても一定レベルの養成講座を実施することができるように、各地の親の会と共催で養成講座を開催することにしました。

今年度の特別支援教育支援員養成講座は、8月30日から11月15日にかけての7日間、兵庫LD親の会「たつの子」が開催し、ボランティア支援員養成講座は、12月6・7日に福岡発達障がい者親の会「たけのこ」、12月20・21日にあいちLD親の会「かたつむり」が開催して、たくさんの方にご参加いただきました。

【特別支援教育支援員養成講座】

（支援員コース、学習支援員コース）

◆日程:2014 年 8 月 30 日(土)～11 月 15 日(土)

◆会場:神戸市勤労会館　3F　講習室　308

◆共催:兵庫LD親の会「たつの子」

◆コース:

・支援員コース[講習:5 日間(21 科目/30 時間)]

・学習支援員コース[講習:7 日間(27 科目/41 時間)]

◆講師:

特別支援教育士SVを中心とした有資格者16名

◆受講者:

支援員コース 52 名(修了 48 名)

（48 名のうち 2 名は、学習支援員コース受講者）

学習支援員コース 18 名(修了 15 名)

◆プログラム

第1日　2014年8月30日(土) 9:20～17:00

（支援員コース・学習支援員コース共通）

	科目
	オリエンテーション
1	特別支援教育概論 竹田 契一(大阪教育大学名誉教授)
2	特別支援教育支援員としての業務 大谷 和夫(子育てサポートIdeCAT)
3	特別支援教育支援員としての倫理・心構え 大谷 和夫(子育てサポートIdeCAT)
4	主な障害の特性の理解(1) 藤井 茂樹(びわこ学院大学)
5	主な障害の特性の理解(2) 藤井 茂樹(びわこ学院大学)

第2日　2014年8月31日(土)9:20～16:40

（支援員コース・学習支援員コース共通）

6	学校・学級での支援の仕方 中尾 繁樹(関西国際大学)
7	担任との連携の仕方 中尾 繁樹(関西国際大学)
8	子どもへの対応の基本 苫廣 みさき(一般社団法人発達支援ルーム)
9	障害のある子どもの心理 苫廣 みさき(一般社団法人発達支援ルーム)

第3日　2014年9月27日(日)9:20～16:40

（支援員コース・学習支援員コース共通）

10	子どもの特性と対応方法(A)-⑤ 介護・介助の基礎、移動介助 中尾 繁樹(関西国際大学)
11	子どもの特性と対応方法(A)-⑦ 視覚障害 田中 良広(国立特別支援教育総合研究所)
12	子どもの特性と対応方法(A)-③ 社会性・コミュニケーション・行動面の困難とサポート方法 伊丹 昌一 (梅花女子大学)
13	子どもの特性と対応方法(A)-④ 行動面の困難とサポート方法 伊丹 昌一 (梅花女子大学)
	ロールプレイイング、グループ討議 伊丹 昌一 (梅花女子大学)

第4日　2014年9月28日(日)9:20～16:40

（支援員コース・学習支援員コース共通）

14	子どもの特性と対応方法(A)-① 自立生活面の困難とサポート方法 松久 眞実(プール学院大学)
15	子どもの特性と対応方法(A)-② 学校生活面での困難とサポート方法 松久 眞実(プール学院大学)
16	ペアレント・トレーニングの視点(1) 米田 和子(NPO法人 ラヴィータ研究所 子ども発達相談センター・リソース「和」)
17	ペアレント・トレーニングの視点(2) 米田 和子(NPO法人 ラヴィータ研究所 子ども発達相談センター・リソース「和」)

第5日　2014年10月18日(土)9:20～16:50

（支援員コース・学習支援員コース共通）

18	保護者への対応 内藤　孝子(前NPO法人全国LD親の会理事長)
19	子どもの特性と対応方法(A)-⑥ 聴覚障害 森田　雅子(大阪市立聴覚特別支援学校)
20	特別支援教育コーディネーターからのレクチャー 高畑　英樹(神戸市立青陽西養護学校)
21	現役支援員からのレクチャー
	ワーク
-	修了式(支援員コース)

第6日　2014年10月19日(日)9:20～15:40
(学習支援員コース)

22	学習面の困難とサポート方法　3 算数の困難とサポート方法 栗本　奈緒子(大阪医科大学LDセンター)
	ワーク 栗本　奈緒子(大阪医科大学LDセンター)
23	学習面の困難とサポート方法　4 教材・教具の利用方法 山田　充(堺市立日置荘小学校)
	ワーク 山田　充(堺市立日置荘小学校)

第7日　2014年11月15日(日)9:20～16:50
(学習支援員コース)

24	学習面の困難とサポート方法　1 読み書きの困難とサポート方法 村井　敏宏(奈良県平群町立平群小学校)
25	学習面の困難とサポート方法　2 言葉(聞く、話す)の困難とサポート方法 村井　敏宏(奈良県平群町立平群小学校)
26	子ども達に接するときのポイント 西岡　有香(大阪医科大学LDセンター)
27	ロールプレイイング、グループ討議 西岡　有香(大阪医科大学LDセンター)
-	修了式(学習支援員コース)

◆講座満足度アンケート結果

(1)支援員コース

①カリキュラム

満足 64%　概ね満足 32%　不明 4%

②レベル

満足 77%　概ね満足 23%

③配布資料

満足 72%　概ね満足 24%　やや不足 2%　不明 2%

④講師陣

満足 85%　概ね満足 15%

⑤運営

満足 79%　概ね満足 17%　やや不足 2%　不明 2%

⑥会場・設営

満足 68%　概ね満足 28%　やや不足 2%　不足 2%

⑦日程

満足 66%　概ね満足 32%　やや不足 2%

⑧受講満足度

満足 85%　概ね満足 15%

(2)学習支援員コース

①カリキュラム

満足 71%　概ね満足 29%

②レベル

満足 71%　概ね満足 29%

③配布資料

満足 88%　概ね満足 12%

④講師陣

満足 76%　概ね満足 24%

⑤運営

満足 82%　概ね満足 18%

⑥会場・設営

満足 65%　概ね満足 35%

⑦日程

満足 47%　概ね満足 41%　やや不足 6%　不明 6%

⑧受講満足度

満足 88%　概ね満足 12%

◆受講者の感想より

・指導員として働いているのですが「ああこういう子いるな」と共感できる部分が多く、時間があっという間でした。

・支援員に望まれる気づき力、思いやり力、調整力など、人間関係の大切さや心構えについて学ぶことができました。

・個別対応の重要性や集団行動の重要性、今からでもすぐに使える方法でした。写真を見せて次の行動に移るなど、使っている方法だったので自信につながりました。

・過去から現在にいたる学校の中の状況がよく分かるお話に聞き入りました。個別の支援計画を作成する上で基になるシートを見せていただき、大変興味深く拝見しました。

・目の前の子どもたちの様子を思い浮かべながらお話を聞かせていただきました。できたという気持ちを味わうことができるよう支援していきたいと思います。

「来年も開講するのですか？」といったお問い合わせもたくさんいただきました。本当にありがたいことだと思います。　(井上)

一般社団法人日本LD学会
第 23 回大会報告

2014 年 11 月 23 日（日）～24 日（月・祝）
会　場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）
テーマ：「より効果的な支援をめざして
－学習支援から問う特別支援教育－ 」

2014 年度の日本LD学会大会は、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で開催されました。毎年、回を重ねるごとに参加者が増えている LD 学会大会ですが、今年も最終参加者は 4,000 名を超えたそうです。

23 日（日）、開会セレモニーが、2,754 名入る 5Fメインホールの舞台で満員御礼の中、開催されました。大会会長の和歌山大学の小野教授が、「より効果的な支援」をテーマに選定した理由をお話されました。また、ご専門である小児科医としての視点で、医療と教育の連携について提言をされました。特に、学校医の役割の重要性について、スウェーデンから来られたギルバーグ博士の唱えられているESSENCEについて紹介をされました。続いてギルバーグ博士が講演され、詳細にわたり同時通訳でお話を聞くことができました。

今年 6 月に新理事長になられた柘植先生のご講演は、この学会が国際的になってきたことを踏まえた「日本LD学会の魅力と可能性」がテーマでした。8,000 名を超える会員数と 22 年間の学会の歴史に加え、これからの可能性について分りやすくご解説頂きました。そのなかで、学会の「ブランドイメージ」の明確化が一層大切になってきていること、その為に、(1)「研究力」「実践力」(2)「発信力」「発言力」(3)「学際性」(4)「国際性」が深くかかわっていると提言を頂きました。

今回の大会では、スウェーデンのヨーテボリ大学児童精神科教授のクリストファー・ギルバーグ先生とアメリカのセントジョーンズ大学心理学教授のドーン・フラナガン先生、そしてワーキングメモリーについて京都大学の齊藤智先生の特別講演をお聞きすることができました。

●「一生涯を見据えたESSENCEという考え方」
クリストファー・ギルバーグ教授
（ヨーテボリ大学教授、スウェーデン）

ESSENCEとは、「神経発達に関する臨床検査が必要であると気付かせてくれる小児期早期の症候群」の略です。その障害の中にはアスペルガー症候群、ADHD，LDなども含まれ、その半数は成人になっても障害と関連する重篤な問題を示します。また女児は見逃されることが多く、うつ病、不安障害、人格障害等間違った診断を受けています。ESSENCEは、小児期早期に診断を受けることができるので、心理教育的（時には薬理学的）な指導を受ければ、心理社会的二次障害を最小限に抑えられます。

●「新しいLDの判断」
ドーン　P・フラナガン
（USA、セントジョーンズ大学心理学教授）

フラナガン教授は、特異的学習障害（SLD）の検査・測定のコンサルタントとして世界的に活躍されている女性博士です。今回のご講演では、SLDを特定するために開発されたDD／Cを詳細に解説して頂き、これを基に開発されたプログラムPSW-Aのデモンストレーションが行われました。

●「ワーキングメモリーと認知の構え」
齊藤　智（京都大学大学院教育学研究科　准教授）

齊藤准教授は、記憶の機能とメカニズムの認知心理学的研究から人間を理解しようと、数多くの論文をお書きになり、日本教育心理学会優秀論文賞等受賞されています。当日は、竹田契一大阪教育大学名誉教授の司会でおこなわれました。内容が難しいですが、「思考の逸脱現象」に関わるのがワーキングメモリーです。これを訓練するプログラムが有効であることが実践で分かってきており、トレーニング効果のメカニズム解明が今後のテーマという事でした。　（入船）

親の会企画シンポジウム

日　時：2014年11月23日（日） 15:30～17:00
テーマ：高等学校における特別支援教育～LD等の発達障害のある生徒への支援の充実に向けて～
企 画 者： NPO法人全国LD親の会
司 会 者： 多久島　睦美（NPO法人全国LD親の会）
話題提供者：鋒山　智子（京都府総合教育センター）
東條　裕志（NPO法人全国LD親の会）
指定討論者：樋口　一宗（兵庫教育大学）
【企画の趣旨】

高校という時期は、生徒一人一人が自らのライフデザインを考える上で非常に大切な時期であり、主体的に進路選択できるよう、一人一人の教育的ニーズが的確に把握され、自立と社会参加に向けた教育的支援が具体化されることが重要です。平成 19 年から、高等学校においても特別支援教育の体制整備が進められてきましたが、まだまだ十分とは言えません。高等学校における特別支援教育をどのように充実させていくのか…今年度、全国LD親の会が発行した「LD 等の発達障害のある高校生の実態調査報告書Ⅱ」（全国LD親の会・会員調査）からニーズを明らかにし、高等学校における特別支援教育の現状と課題について考えるシンポジウムを企画しました。

当日は、109 名の方にご参加いただき、「高校生の実態調査報告書」にも多くの関心が寄せられました。

○「高校生アンケート結果から見えてくるニーズ」

NPO法人全国LD親の会　東條　裕志

「LD 等の発達障害のある高校生の実態調査報告書Ⅱ」（全国 LD 親の会・会員調査）のデータを示しながら、「進路選択時に困ったこと」「高校での発達障害の理解度」「高等学校の支援体制や対応」「高校卒業後の進路」等の課題について報告がありました。

・2006 年に引き続き、7 年後の 2013 年に再調査を行い、高校での発達障害への理解は着実に進んで来ているが、一般の高校では、特別支援コーディネーターが認知されておらず、まだまだ個別の支援までは至っていない現状が明らかになっている。

・保護者が困っていると回答したのは、主に「本人の適性に配慮した進路指導をして欲しい」「中学校と高校の連携を深めて欲しい」「本人の適性が分からない」「進路指導がとりあえずの進学になっている」等の点である。

・進路選択に向けて情報を収集・共有し、本人の希望や適性について早い時期から考えることが必要といえる。

○「高等学校における特別支援教育の取組と課題」

京都府総合教育センター　　鋒山　智子氏

京都府の支援システムと高等学校の現状、文部科学省のモデル事業指定校の取り組み等をご紹介いただきました。

・現在、全ての高校において、特別支援教育コーディネーターの指名・校内委員会の必要性・専門家チームの巡回相談等、ほぼ周知され、学校によっては職員全体の「チーム支援」「学習支援」に対する意識が高まっている。しかし一方で、担当者のみに対応を任されたり、単位認定や進級・卒業の判断等での苦悩が聞かれる。日々の授業をはじめ学校生活においても、学校によって、また担任によって対応は様々なのが現状である。

・一般的に、教室で孤立する高校生に対し、先生がわざわざ友人関係まで支援してくれることは稀なので、本人自らがSOSのサインを出すことが大切。本人の自分理解（自分のできること・できないことを知る）を深め、自らSOSを出せる力を育てる、相談できる先生(キーパーソン)を見つけることが重要。

・モデル校では、『特別ではない特別支援』『どの子も大切にする学校』のスタンスのもと、SST・ユニバーサル授業・キャリア教育等に取り組み、成果を上げている。

○指定討論

指定討論者の樋口先生からは、文部科学省の「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育モデル事業」等についてお話しいただきました。「本人・親が高校でうまくやっていくための秘訣」について、鋒山先生より「子どもが小さい時からSOSをキャッチし、フォローした子は折れることが少ない。自己理解・自己肯定感を高めることが大切」とのお話がありました。　　（多久島）

親の会紹介ポスター展示

2014 年 11 月 23 日（日）・24 日（月）の両日、今年も会場の 12 階ホワイエで、親の会紹介ポスター展示を行いました。全国から 20 の会より応募を頂き、全国LD親の会のポスター「特別支援教育支援員養成講座のシラバス」と共に過去最高の 21 枚のポスターが展示されました。

いずれも個性豊かな力作で、それぞれの会の愛情を感じる展示会場となりました。ポスターは、全国LD親の会のホームページに掲載します。是非ご覧下さい。

会場で販売しました約 70 冊の「LD等の発達障害のある高校生の実態調査報告書Ⅱ」は即日完売し、参加者の関心の高さが感じられました。

展示に際し、下見・レイアウトをしてくださった内藤さん、募集・申込を担当してくださった「おたふく会」、展示・回収・書籍販売を担当してくださった大阪の「おたふく会」・「翼」の皆様、本当にありがとうございました。また、大会実行委員会のご配慮で今年も親の会控室も用意していただきました。感謝致します。

親の会懇親会

11 月 23 日（日）17:30 から、会場横のリーガロイヤルホテル大阪のレストラン「リモネ」で懇親会を行いました。会員 30 名と、親の会企画シンポジウムにご登壇いただいた鋒山先生（京都府総合教育センター）、樋口先生（兵庫教育大学大学院教授）もご参加いただき、ビールで乾杯。体に優しくお洒落なバイキングメニューとフリードリンクに、皆さん何度も足を運んでおられました。美味しい料理と楽しい会話のひと時。総会時とはまたひと味違う懇親会を堪能しました。会場確保、交渉に奮闘いただいた「おたふく会」の皆様ありがとうございました。　　（吉田）

一般社団法人 日本発達障害ネットワーク （JDDnet）より

体験博覧会報告

日 時: 2014 年 12 月 7 日

会 場:首都大学東京 荒川キャンパス

毎年、発達障害者支援法の成立の時期に合わせて 12 月にJDDnet の年次大会と体験ワークショップを行ってきましたが、今年度は年次大会を 7 月に札幌で行ったため、体験ワークショップ単独の開催となりました。

今までより 30 分長くなった 1 回 2 時間のワークショップが午前に 5 コマ、午後に 4 コマあり、その他に無料公開の「本人が選んだ役に立つ支援機器の展示」がありました。周知期間が短かったにもかかわらず 99 名が参加し、ワークショップによっては定員いっぱいで当日参加ができないものもありました。

JDDnet加盟の各団体が体験ワークショップを主催するのですが、全国LD親の会では、今年度の公開フォーラムでもお世話になった両川晃子先生に、「『障害のある子どもの心理』心理的疑似体験」を行っていただきました。

疑似体験の参加者は、「苦手で、できそうもないこと」をやるように期待されることは、どんなに優しい言葉で言われても本当に苦痛だということを改めて実感してもらえたと思います。

参加は 11 人と少なめでしたが、もっと多くの人に体験してもらいたいと思いました。

支援機器の展示では、IT機器だけでなく、多面体などの立体模型や囲碁のゲーム等もありました。

今回も関東ブロックの方に親の会の展示や受付等を手伝っていただきました。ありがとうございました。

☆☆☆ JDDnetからのお知らせ ☆☆☆

- 一般社団法人日本発達障害ネットワークのHPが新しくなりました。一度是非、覗いてみて下さい。
  URL には変更ありません。 http://jddnet.jp/
- 日本発達障害ネットワークの略称を「JDDnet」の表記にすることになりました。今まで「JDDネット」「JDDNET」等とも記されていましたが、「JDD」は大文字、「net」は小文字に統一しました。今後はできるだけ「JDDnet」を使用いただきます様、お願い致します。
- JDDnet主催の発達障害啓発イベントを 2015 年 4 月 1 日（水）に東京都で行います。「発達障害の支援を考える議員連盟」の議員の皆様もお越しいただく予定です。詳細は後日お知らせしますのでご期待ください。

（東條）

全国特別支援教育推進連盟 より

12 月 5 日、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）にて、 第 37 回全国特別支援教育振興協議会が開催されました。「特別支援教育の更なる充実をめざして」をメインテーマに、関係団体・学校関係者等 200 名が参加しました。（全国LD親の会から 6 名参加）

午前は文部科学省特別支援教育課より、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」に関する様々な施策について説明がありました。（特別支援教育に関する予算は、年々増額されています。）

第 1 部シンポジウムでは、「共生社会の実現に向けた PTA 活動について」をテーマに、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校それぞれの PTA より、障害児（者）支援の活動について報告がありました。障害に対する差別や偏見がなくなるよう、一般の小中学校での理解や交流が草の根で広がってほしいと切に願いました。

国立特別支援教育総合研究所からも解説がありました。国立特別支援教育総合研究所では、障害特性に応じた指導方法やICTを活用した教材・支援機器の研究が進められています。また、「インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）」を開設し、「合理的配慮」の実践事例等を公開していますので、ご覧下さい。

第 2 部シンポジウムでは、「特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関等との連携の在り方について」のテーマで、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のコーディネーターの先生より報告がありました。

特別支援教育が始まって 8 年になりますが、まだまだ通常学級の先生方までは、特別支援教育の理念が浸透していないように感じています。子ども達にとって大切な「インクルーシブ教育」「合理的配慮」といった新しい概念を通常学級の先生方にご理解いただくためには、保護者とコーディネーター・関係機関との連携や、親の会の役割が一層、重要になってきます。私たち保護者も、子どもの特性を的確に伝え、具体的な支援を求められるよう、「合理的配慮」等について学びを深めていきましょう。

全国特別支援教育推進連盟は、厚生労働省の「障害児支援の在り方に関する検討会」「障害児通所支援に関するガイドライン策定検討会」の委員も務めています。毎年、推進連盟を通じて、文部科学省・厚生労働省への予算要望や私たち保護者の思いを伝えていただいています。

（多久島）

寄稿 ： 障害児支援の見直しと発達障害 JDDnet 理事 大塚晃先生

はじめに

平成 27 年 4 月にスタートする予定の子ども・子育て支援新制度を踏まえつつ、障害者総合支援法施行 3 年後の見直しに併せて行う制度見直し等を視野に置いて、今後の障害児支援の在り方について検討するために「障害児支援の在り方に関する検討会」が平成 26 年 1 月より 7 月にかけて10回開催された。平成26年7月 16 日に、「今後の障害児支援の在り方について（報告書）～「発達支援」が必要な子どもの支援はどうあるべきか～」がまとめられた。発達障害児支援の現状と課題について明らかにしたい。

障害児支援の理念

障害者権利条約及び差別解消法の成立に伴い、障害児それぞれの合理的配慮を行っていく必要がある。障害児の地域社会への参加・包容（インクルージョン）を子育て支援において推進し、障害児本人の最善の利益や家族支援を行っていくことが重要である。そのためには、ライフステージに応じた切れ目の無い支援（縦の連携）と保健、医療、福祉、保育、教育、就労支援等とも連携した地域支援体制の確立（横の連携）が図られる必要がある。

具体的な提言

(1)地域における「縦横連携」を進めるための体制づくり

・児童発達支援センターを中心とした重層的な支援体制（各センターによる保育所等訪問支援・障害児相談支援の実施等）を構築する。
・保育所等訪問支援等の充実、入所施設への有期・有目的入所を検討する。
・障害児相談支援の役割を拡充する。ワンストップ対応を目指した子ども・子育て支援新制度の「利用者支援事業」と連携していく。
・（自立支援）協議会を活性化する。支援に関する情報の共有化を目的とした「サポートファイル」を活用する。
・障害福祉計画における障害児支援の記載義務を法定化する。

(2)「縦横連携」によるライフステージごとの個別の支援の充実

・ライフステージごとの支援（乳幼児期、小学校入学前、学齢期、卒業後）を切れ目無く行う。
・保護者の「気づき」の段階から支援する。保育所等での丁寧なフォローによる専門的な支援へのつなぎ、障害児等療育支援事業等の活用を行う。
・教育支援委員会や学校等及び卒業後を見据えた就労移行支援事業と連携する。

(3)特別に配慮された支援が必要な障害児のための医療・福祉の連携

・発達障害は「脳機能の障害」であるとされており、発達障害の専門的な診療機関による「心身状態」の把握が重要であるが、医学的検査の他、継続的な行動観察、日常生活上の適応状況に関する複数の場面での様子など数多くの情報収集が必要であり、関係機関の協力体制が求められる。
・発達障害の専門的な診療機関がその機能を最大限活用できるようにするためには、かかりつけ医や保健師、保育士、教員、事業所職員等と日常的に情報交換を行い、役割分担を明確化した上で具体的事例において円滑に引き継ぎ等を行うことができるような連携体制を整備することが重要である。本検討会でヒアリングを行った都立小児総合医療センターや三重県立あすなろ学園等では、様々な子どもの心の問題、発達障害等に対応するために地域の医療機関や保健福祉関係機関等の連携体制の構築を図る「子どもの心の診療ネットワーク事業」により地域の関係者の研修等が行われているが、このような拠点となる医療機関の確保、及び、各機関における実践研修等の一層の普及について検討すべきである。
・強度行動障害支援者養成研修を推進するために、施設、事業所の職員が研修を受講し適切な支援ができる体制の整備を報酬上評価するなど、研修の受講を進めるための具体的な方策を検討する。

(4)家族支援の充実

・ペアレント・トレーニングを推進する。精神面のケア、ケアを一時的に代行する支援、保護者の就労のための支援、家族の活動、障害児のきょうだい支援を行う。

(5)個々のサービスの質のさらなる確保

・一元化を踏まえた職員配置等を検討する。放課後等デイサービス等の障害児支援に関するガイドラインを策定する。
・児童養護施設等の対応を踏まえた障害児入所施設の環境改善及び措置入所を含めた障害児入所支援の在り方を検討する。

などが提案された。

さいごに

すでに述べたが、わが国は、障害者権利条約を平成26 年 1 月に批准し、2 月に発効させた。福祉、教育、労働等あらゆる分野で、発達障害児支援における合理的配慮とは何かが問われている。その際、支援における施設設備及び人員配置などの基礎的環境整備と障害児個々のニーズに基づいた個別支援計画により合理的配慮に取り組んでいくことが求められている。

親の会設立準備を進めています！　東京東部・福島県

●東京東部地域

（公益信託オラクル有志の会ボランティア基金助成事業）
教育講演会
「発達障害のある子ども達への支援の仕方」
～学校での取り組みと家庭での活用方法～
日時:平成 26年11月10日（土）14:00～16:30
会場:江戸川区総合文化センター

今回の講演会は、植草学園短期大学教授の漆澤恭子先生に、発達障害のある子どもへの通常学級での支援や学校と家庭の連携について話していただき、保護者や教育現場の先生方や支援機関の皆さま方とともに、LD等発達障害のある子どもへの支援について考える場となるよう計画しました。更にLD等発達障害のある子どもを持つ保護者や家族が地域において仲間を作り、支援関係者と連携していくことが、保護者や家族の孤立を防ぎ、保護者支援・家族支援につながることから、全国組織的な親の会がない東京東部地区の多数の方々に関わって頂くきっかけの場とする事を目的に開催しました。

参加者は 46 名、4 県 10 区 2 市からあり、参加構成は保護者 22 名、教師 7 名、支援者 6 名、その他 11 名で、保護者の参加割合が高かったです。

講演の内容は、「児童理解をした上での要支援児童がいる学級経営をどう行うか」を基本として、子どもたちが学校やクラスの色々なルールを覚え、社会に出るための基礎を育むところが学校であること、集団で学ぶことの大切さを話されました。そして、通常学級での具体的な支援の仕方（回答欄が大きいテスト用紙、板書の工夫、より具体的な指示の出し方、教師の手出しあり等）、周りの支援を必要としない子どもたちへの配慮、家庭では他のきょうだいが寂しい思いをしていないかなど、きめ細かな配慮に加え、「聞くこと・話すこと」の重要性や中・高生では自分の状態を言語化すること（アサーション）の大切さも語られました。漆澤先生の教育への情熱がひしひしと伝わってくる講演会で、集団での教育の重要性を再確認しました。だからこそ、大多数が普通学級で学ぶ、発達障害を持つ子どもへの支援がより重要になると思われます。

30 分間の質疑応答では、「板書をカメラで撮る」という支援法が先生から提案されたところ、「学校の許可が出ないのでそれは難しい」と参加者から声が上がり、続いてコーディネーターや校内委員会、個別支援計画書の話題で盛り上がり、フロアとの間で直接的な意見交換へと発展しました。

組織的な親の会がないと手に入る情報量が少ないことが分かり、参加された方は親の会の必要性に気付かれたのではないかと思いました。

○講演全体の感想

【保護者】

・わかりやすく、具体的な話が多かった。
・先生の立場からの試行錯誤、工夫などがよくわかり、とても参考になりました。特に保護者からアプローチしてほしいというメッセージは心強く思いました。
・LD の親の会なので、書く・読むなど先生との連携プレーの仕方、クラスに理解してもらう方法を教えていただきたかった。
・とても有意義な講演をありがとうございました。できる事から始められる支援のヒントを学ぶ事ができました。漆澤先生のお人柄か、安心して話を聞く事ができました。
・とてもいい先生だなと思いました。自分の子どもの先生だったらいいなと思いました。
・ありがとうございました。周囲と協力して、子どもと接していこうと思いました。

【教員】

・学級経営や授業作りの勉強になりました。今後もがんばっていこうと思えるお話で、とても有難かったです。
・教員の心と言葉を代弁してくださり、とても勇気が出ました。保護者の方とうまく連携をとり、子どもたちにとってよりよい支援、かかわりをしていきたい！と思いました。
・漆澤先生の思い＋願いがあふれ、大変中身のつまった講演でした。いただいた資料にしっかり目を通し、学習を深めたいと思います。
・「安心できる学級」が基盤であることを再確認しました。
・校内の支援委員会・コーディネーターが機能していない実態を聞いて、驚きました。
・教員の立場から、保護者と学校がよい形でつながるすすめをお話いただけてよかったです。保護者からの声は、本当に有難いです。子どもが安心して生活できるように何をすべきか、チームとして一緒に考えられることは喜びです。（内藤）

第1回研修会報告

テーマ:「発達障害のある子どもたちの高校進学」
～高校進学の選択とその後の状況について～

日時:平成26年12月13日(土)14:00～16:30

会場:タワーホール船堀307会議室

参加人数: 40名(情報提供者3名・スタッフ5名含む)

このテーマは、一昨年来より東京東部地区での親の会立ち上げに向けた活動に協力してくれている親御さんたちからの声を受けて設定したもので、先輩の親の体験談を聞くという、親の会の基本となる活動内容でもあります。

42名定員という小規模なものではありましたが、やはりテーマに対する関心度は高く、期日前には定員に達する申込みをいただきました。(当日欠席11名)

グループに分かれての座談会形式を取り入れ、全員が、参加できる・話せる・聞ける・情報を共有できるを目標にした結果、参加者アンケートには「大変参考になった」「自分も話せて良かった」「意見交換ができた」「いろいろな立場の方の情報が得られた」という記入を多くいただきました。

実体験の貴重な情報を提供してくださった、にんじん村の3名のお母様方には、本当にお手数をおかけしました。快くお引き受けいただき、ご協力くださいましたこと、この場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。

さて当日は、まず担当評議員より開会の挨拶をさせていただき、続けて3名の情報提供としてそれぞれ20分ずつお話いただきました。私立普通高校、通信制サポート校、都立職業高校へと進み在学中のお子様のお母様方です。幼少期からの様子、特性、環境にも触れながら、高校を選択するにあたって中学校でできること、してきたこと、した方がいいこと等を具体的に聞かせてくれました。何をポイントに志望校を絞っていくかという点について、一番大切なのは「本人が選んで決める」ことですが、学校公開日に行って在校生の様子を良く見ることや体験入学に参加すること、また、担任や教員が専門の資格や講習を受けているか、その体制が整っているか等を重要視したという報告がありました。受験のための教科学習については個別や個人の学習塾を利用し、加えて内申書の点数を上げる工夫として学校の係活動や地域のボランティア等に参加すると良いといったヒントも教えてもらいました。さらには、東京都の都立高校受験の際の特別措置(障害のある受験者に対する措置)についても少し触れてくださる等、沢山の情報を短時間の中に込めてくださいました。

その後50分間を全員で5つの班に分かれての座談会としました。予めテーマを決めての班編成というのではなく、その場の前後の座席を合わせてという班決めでしたので、構成メンバーに子どもの年齢の偏りが出てしまったところもあり、事前に着席の工夫等を省略してしまった点は反省したいと思います。

それぞれの班で話された内容の一部を報告します。

○生活習慣を身につけさせるために、お友だちを使って見習わせるということも効果的だった。
○高校は自分にあった学校を選べるが、その先の就労は必ずしもそうではない。将来を見据えて学校選びをしたい。
○自分で決めたという気持ちを大切にしたい。
○学校に「障害名」をいつ・どのように伝えたらいいのか。
○告知について話題にした。その子の特性によって違うので、医師や担任等も頼れる存在。
○親自身の気持ちの安定が重要。
○小学校では支援があるが、将来はどうなるか不安。
○思春期に向かうので、友だちとの関係もどのように変わるのか心配。
○本人なりに工夫していることを、親が止めてしまっていることがあるのではないかと、心配になる。
○担任(年配の方)になかなか理解してもらえない。等々皆さん時間を忘れて熱心に話し合われていました。親の会の必要性も理解いただけたと感じましたが、会の立ち上げにはさらに回を重ね、背中を押す必要があると思います。今後とも関係各位のご協力をお願いいたします。

(三輪)

●福島県

福島県は全国LD親の会に加盟する親の会がない状態が 10 年近く続いています。これまで講座等企画して参りましたが、保護者の方の参加が少ない状況にあります。県人口約200万人、県面積全国3位、県内市町村数全国5 位(59 市町村)という条件が福島県にはあり、歴史的な理由からも行政圏・文化圏がはっきり分かれています。東北ブロックの他県のように飛びぬけた中心都市が県内には存在せず、私たちが空白県対応の対象とする福島県内地域の選定も紆余曲折しております。

今秋に地元の方々にお会いし県内情勢や課題等をお聞きする機会がありました。状況としては①東日本大震災後、解決すべき課題が多方面に亘り多いため行政としても対応に苦慮していること②児童精神科等の専門の医療機関の数が十分でないこと③特別支援学校の整備は新設が難しく統合の計画が多いこと④居住地域が広域であるため県内での連携が容易でないこと⑤就学前のみならず、義務教育後の青年期まで一貫した支援体制が十分でないこと等により、退学してしまったり、卒業後の就職が困難であったり、離職が多かったりする等のお話を伺いました。

空白県対応の今後は、福島県内で実際に療育をされている先生に保護者の連携についてご相談することを含め、これまでとは別な地域での相談会や茶話会を検討し、模索していきたいと考えております。 (斗内沢)

東海・北陸ブロック便り

愛知かたつむり・岐阜れんげの会・三重ハナショウブの会・富山ゆうの会・石川パル・福井たんぽぽの会の活動を紹介します。

子ども達が自ら活躍できる活動を
あいちＬＤ親の会「かたつむり」

かたつむりは、小学生・中学生・高校生・青年部の世代ごとのグループと、あそびクラブ・ボランティアクラブ・女の子の会・SST等の有志グループで、それぞれのニーズに応じた活動をしています。

12月には毎年恒例のクリスマス会を催しました。今年度は、小中学生の子ども達で実行委員会を立ち上げ、プログラムや役割分担を話し合い、クリスマス会のポスターやツリーの飾りも自分たちで手作りしました。実行委員会の名前も子ども達で話し合って、「GROW　UP」と決めました。（「成長する」という意味だそうです。そんな名前を選んだ子ども達の思いに胸が熱くなりました。）

また、女の子の会では、隔月「ハッピークッキング」と銘打って、高校生以上の女の子の料理教室を開催しています。クリスマス会当日、「ハッピークッキング」で作ったオードブルやサンタのマフィンの差し入れに、小さな子ども達も大喜びでした。

青年部も毎月、月例会を開き、本人達の当番制で様々な余暇活動を楽しんでいます。高校生も小中学生グループの活動にボランティアとして参加したりと、各グループで「本人活動」を意識した活動を取り入れています。

私たち親も、2年後の障害者差別解消法の施行に向け、一人ひとりの特性に応じた支援が当たり前になることを願い、「合理的配慮」等について学んでいきたいと考えています。子ども達が豊かな経験を通して自己理解を深められるよう、また、親子が笑顔になれるよう、これからも楽しく活動を続けていきたいと思っています。

子どもたちの将来を見据えて
岐阜県LD親の会「れんげの会」

私たち「れんげの会」は、設立してから早いもので8年目になりました。設立当時、小学生だった子ども達は、今では中学生や高校生・大学生になり、これから社会へ出ていく子たちが増えてきました。

れんげの会では、親や子どもの居場所づくりをモットーに、定例会に講演会や学習会、岐阜大学の先生にご指導をいただきながらのP．S．P（ペアレント・サポート・プログラム）、パソコンのインストラクターを招いての保護者向けパソコン教室、親子一緒に自然の家での野外学習事前体験やデイキャンプ、クラフト体験で今年度はアロマキャンドルやリース作り、音楽療法体験なども行いました。また、年に数回のボーリング大会や毎年恒例のクリスマス会も、子どもたちの楽しみの一つになっています。

これら従来の活動に加えて、会のメンバー構成の実態を踏まえ、また子ども達の将来を見据えて、昨年度より、中学生以上を対象にした「キャリア教育講座」を年間5回シリーズで行っています。内容としては、自己理解に関すること、働くということ、金銭感覚を養うこと、社会的ルールやマナーについて、スマホやパソコンなどのネットトラブル対策、性教育などを取り入れました。講師として、就労移行支援事業所の方や、大学、パソコンインストラクターの先生、ファイナンシャル・プランニング技能士の方々にお願いして行いました。

講座で学んだことが生かされ、子どもたちが社会人として少しでも豊かな生活を送ることができるよう願っています。

親と子の温かな居場所つくり
三重県学習障害児・者親の会
「ハナショウブの会」

ハナショウブの会は、会員家族11家族の小さな会です。ここ数年は新会員の入会もなく、ほぼ全員が社会人となりました。活動内容も毎年検討しながら、年に6回、偶数月にバーベキューやカラオケ、パン教室等企画し、活動しています。カラオケでは、子どもと親と別々の部屋でカラオケを楽しめるようになりました。最初、子ども達だけでどうなることか・・・と少々心配もありましたが、子どもは親が思うよりも成長しており、曲の検索や入力等、協力し合ってたくさん歌えたようです。時々、分からないことを親の部屋に聞きにくる程度で大きなトラブルもなく過ごすことができました。最初は心配していた親もだんだん子どものことを忘れ、たくさんしゃべって歌って食べてと、楽しいひとときを過ごし、また子どもの成長を再確認できた企画でした。

今後、会員も減少していくと思われますが、楽しい居場所作りを頑張りたいと思います。

20 周年を迎えて
富山県ＬＤ等発達障害及び周辺児者親の会「ゆうの会」

本年（平成26年度）は、当会が結成して20周年の節目の年を迎えることができました。平成6年に県内の医療機関へ通院していた仲間で全国LD親の会の指導もあって、同じ悩みを持つ者同士、支えあい、助け合いを大きな目的としてスタートいたしました。現在では、正会員・賛助会員を合わせて50名あまりとなっております。

さて、本年度は、サポートツールキャラバン2014「教材教具研修会」を開催いたしました。開催の意思決定から約10ヶ月、開催への不安もありましたが、富山県内を中心に石川県・長野県から約100名の参加をいただきました。参加者は現場の先生方をはじめ保護者がほとんどでありましたが、経験豊かな講師からの実践的な内容は、参加者から大変好評でありました。特にグループでの討議は、小学校現場での実際の様子を元に対応策を協議するものでした。小学生の子を持つ会員はそれほど多くない会ではありますが、中高生、青年層にも共通したものが多くあったものと考えています。

富山県内でも、ある調査では、「保育所では約3000人、小中学校では約4300人が落ち着きのなさが見受けられる」との結果が出ています。まだまだ子どもの変化に気づいていない保護者も相当多くいるのではないでしょうか。少子化が叫ばれ、その対策も各方面で講じられていますが、生まれてくる子どもが少なくなっている中で、発達障害を含めた様々な障害を持って生まれてくる子どもの割合が増加している状況にあるというデータもあります。今、私たちは子どものために何ができるか、どのような活動が効果的かをお互いに話しあいながら、進めていく必要があると思っております。

サポートツールキャラバン2014
教材教具研修会　in富山

仲間つくりと余暇の充実
石川県発達障害児・者親の会「PAL」パル

パルは1994年に設立し、20年目に入りました。小さかった子ども達も大人になり、現在会員の9割が20歳以上です。生活の質を高め、社会生活に適応できるよう、余暇生活の充実を中心に活動を行っております。しかし、少ない中高生の活動は自主的には行えない為、北陸ブロックの他の会からのお誘いに参加している状況です。会としての主な活動は月1回カラオケ、年2回旅行、年1回忘年会、キャンプ、不定期ランチ会などです。お父さん達の協力をも得て、「大人になっても付き合える仲間つくり」を目指して頑張っています。

子ども達の成人期を支える活動
福井たんぽぽの会

私たち福井たんぽぽの会は、今年で創立21年目となります。昨年は20周年記念行事として、小さなホールで会員の子ども達に得意な事や趣味の紹介、体験発表などをやってもらいました。就労体験発表、和太鼓グループの演奏、お笑いパフォーマンス、ボイスパーカッション、スポーツチャンバラのワークショップ、カラオケ、フィギュア収集や鉄道模型の展示など、バラエティ豊かな内容で大いに盛り上がりました。子ども達も手伝っての昼食作り、以前のたんぽぽ学習教室の先生も就労準備の講座を開いてくださり、充実した一日を過ごすことができました。

現在会員は20名の小さな団体ですが、親同士が悩みを話し合い、情報交換をしてお互いに支え合っています。JDDネット福井の中心メンバーとして毎年数回ずつシンポジウムなども企画し、地元の行政や専門機関とも繋がりながら活動を続けています。

会員の子ども達の多くは成人期となり、やはり就労が一番の課題となっていますが、当事者それぞれが自分の好きなこと、できる事を何らかの形で仕事に結び付けて、自己肯定感を持って毎日を過ごして行ってほしいと願っています。

●特定非営利活動法人全国LD親の会第 8 回総会のお知らせ

日時:2015 年 6 月 13 日(土)

会場:ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)パフォーマンススペース(1F) (大阪市中央区)

●第 14 回全国LD親の会公開フォーラムのお知らせ

日時:2015 年 6 月 14 日(日)

会場:大阪市中央区の会場を予定 (2015 年 2 月に決定)

テーマ:「これからの発達障害支援と合理的配慮 ～個々のニーズを具体的支援へと結びつけるために～」

●NPO法人全国LD親の会 活動報告

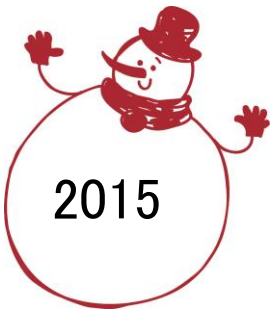
7 月 08 日 全国特別支援教育推進連盟理事会(多久島)
8 月 17 日 JDDnet 理事会(東條)
8 月 30・31 日 特別支援教育支援員養成講座(神戸)(井上)
9 月 02 日 「かけはし 79 号」発行
9 月 23 日 JDDnet 理事会(東條)
9 月 27・28 日 特別支援教育支援員養成講座(神戸)(井上)
9 月 28 日 サポートツール全国キャラバン 2014「教材教具研修会」in 富山(多久島)
9 月 18 日 新国立競技場のユニバーサルデザインに関する意見を JDDnet に提出
9 月 30 日 障害者総合支援法見直しに関する課題および意見を JDDnet に提出
10 月 02 日 全国特別支援教育推進連盟理事会(多久島)
10 月 06 日 JDF 郵便制度に関するアンケートを JD に送付
10 月 11 日 東京東部地域教育講演会(内藤・三輪)
10 月 16 日 全国特別支援教育推進連盟に
厚生労働省「障害児通所支援に関するガイドライン策定検討委員会」への要望提出
10 月 18・19 日 特別支援教育支援員養成講座(神戸)(井上)
10 月 21 日 日本財団に助成金事業進行報告書送付
10 月 26 日 NPO 法人全国 LD 親の会 第 18 回評議員会、第 23 回理事会
11 月 15 日 特別支援教育支援員養成講座(神戸)(井上)
11 月 23 日 一般社団法人日本LD学会第 23 回大会 親の会企画シンポジウム(東條・多久島)
11 月 23 日 一般社団法人日本LD学会第 23 回大会 親の会懇親会
12 月 05 日 全国特別支援教育推進連盟 平成 26 年度振興協議会
12 月 6・7日 JDDnet 理事会(東條)、 JDDnet 体験ワークショップ(東條・内藤・三輪)
12 月 6・7 日 ボランティア支援員養成講座(福岡)(梅野・奥野)
12 月 13 日 東京東部地域第1回研修会(内藤・三輪)
12 月 14 日 福島「ちょっと気になる子の理解と支援」参加(東條)
12 月 20・21 日 ボランティア支援員養成講座(名古屋)(多久島)

●第 23 回理事会報告

出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志

[議案]

1. NPO法人全国LD親の会 第18 回評議員会における審議結果を審議し、
全員一致で承認した。

＜審議内容＞

1. H26 年度補正予算
2. 第 8 回総会日程
3. 「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」の助成金申請
4. 「特別支援教育支援員養成事業」の助成金申請
5. 第 14 回公開フォーラムの開催概要
6. H27年度研修会の開催概要